

科目名称：	色彩学（美術学科）	
担当者名：	鳴海 智子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
美術を学ぶ上で色彩についての理解を深めるために、色彩士検定3級を受験するための必要な知識を習得しながら、インテリアやファッションなど用途に応じた 基礎的な配色法を学びます。		
授業の達成目標・到達目標		
カラーマスター色彩士検定3級テキストに沿って演習課題に取り組み色彩の基本を習得する。 色彩に対する興味や探究心を育て、生活や仕事の実践で役立つ配色法を習得する。 授業ごとに確認テストを実施し、色彩士検定試験前には対策授業を2日間行い3級合格を目指す。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP (2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP (3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP (4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP (1)					0
美術DP (2)	0	30	30	40	100
美術DP (3)					0
美術DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 色彩学を学ぶ意義・色の歴史 演習課題 1: 「Color 自己分析」	教科書内のちょっとひと息 あれこれ色彩雑学 コラム欄を読んでまとめておく。	20分
第2回 第1章 色のなりたち - 物体の色 演習課題 1: 「Color 自己分析」(グループワーク)	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。	30分
第3回 第1章 色のなりたち - 目の構造と視細胞 演習課題 2: 「PCCS 色相環」	1章で学んだことをノートにまとめる。	30分
第4回 第2章 混色 - 加法混色 演習課題 2: 「PCCS 色相環」	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。	30分
第5回 第2章 混色 - 減法混色 演習課題 2: 「PCCS 色相環」	2章で学んだ加法・減法混色の違いをノート にまとめ理解する。	30分
第6回 第3章 色の表示方法 - 色の三属性 演習課題 3: 「PCCS 等色相面」	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。	30分
第7回 第3章 色の表示方法 - ヒュートーンシステム 演習課題 3: 「PCCS 等色相面」	3章で学んだヒュートーンシステム等をノート にまとめ理解する。	30分
第8回 第4章 色の知覚的效果 - 色の対比・同化 演習課題 3: 「PCCS 等色相面」	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。	30分
第9回 第4章 色の知覚的效果 - 感覚に及ぼす色の効果 演習課題 4: 「トーン: 色調のイメージをつかむ」	4章で学んだトーン: 色調のイメージをノート にまとめ理解する。	30分
第10回 第5章 色の心理的效果 - 色の象徴性 演習課題 4: 「トーン: 色調のイメージをつかむ」	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。	30分
第11回 第5章 色の心理的效果 - 色の習慣 演習課題 4: 「トーン: 色調のイメージをつかむ」	課題5、色彩構成しやすい熟語を探す。色彩 構成のためのアイデアスケッチを描く。	30分
第12回 第6章 色彩調和 - 色相を基準にした配色 演習課題 5: 「色彩表現」	5章で学んだ配色法をノートにまとめ理解す る。	30分
第13回 第6章 色彩調和 - トーンを基準にした配色 演習課題 5: 「色彩表現」	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復 習する。 課題5 ケント紙に色彩表現する。	30分
第14回 第6章 色彩調和 - 基本的な配色技法 演習課題 5: 「色彩表現」	6章で学んだ基本的配色法をノートにまとめ 理解する。	30分
第15回 総括・色彩士検定 理論問題確認小テスト	理論問題の間違った箇所を見直し理解する。 課題1・2・3・4・5の仕上げに取り組む	50分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業 時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事後学修としては、授業中に実施した確認テストを復習しまとめてく。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業への積極的関与20%、課題2～5: 色彩基礎演習課題30%、確認テスト評価50%		
課題に対するフィードバック		
課題のチェック後にコメントを記入し返却する。		
教科書・参考書		
教科書: Color Master BASIC (NPO法人 アデック出版局)、配色カード199a		